

研究基盤の活用・連携に向けた論点

1. 論点設定の背景

兵庫県では、科学技術振興を県政の重要課題として位置づけ、積極的に取り組んできた結果、SPring-8、E - ディフェンスなど、今後の世界の科学技術をリードするような研究機関をはじめ、300 を超える大学や企業等の研究機関が立地し、質量ともに世界に誇るべき研究基盤を形成している。とりわけ、最近では、国の第3期科学技術基本計画において、将来の日本の発展を支える国家基幹技術として位置づけられた5つの国家的大規模プロジェクトのうち、X線自由電子レーザーと次世代スーパーコンピュータの2つの世界最先端の研究施設が立地し、さらなる科学技術基盤整備が進みつつある。

こうした研究基盤の集積の強みを生かして、イノベーションや新産業の創出を図り、地域産業の活性化を進めるには、研究基盤の集積を地域の魅力として広く内外に情報発信することによって、国内外からトップレベルの研究者と産業界の研究開発投資を呼び込み、研究開発や研究交流が活発に展開される環境を整え、そうした集積や活動が世界の耳目を集めるといった好循環を創り出していく必要がある。

そこで、本年度、第4期兵庫県科学技術会議を設置し、県内に集積した最先端研究機関の活用・連携方策について調査審議する。

2. 主な審議項目

第4期では、県内に集積した最先端研究機関の活用・連携方策を具体的に調査審議するため、「県内の研究基盤の活用・連携に向けた基本的な方向と推進方策」について調査・審議し、提言を行う。

(1) 産業利用に係る活用・連携

- ・各機関が連携した産学共同研究プロジェクトの推進支援
- ・研究機関や企業をつなぐコーディネート活動の支援
- ・各研究機関に所属する異分野の研究者間のネットワーク形成
- ・研究機関の研究成果を産業に結びつける取り組みの構築、等

(2) 情報発信に係る活用・連携

- ・リサーチ HUB 兵庫としての国内外への効果的な情報発信の手法
(例：国際放送番組を通じ、県内研究機関の活動を海外研究者向けに発信)
- ・研究機関のネットワークを活用した情報発信、等

(3) 科学技術の理解増進に係る活用・連携

- ・最先端の研究施設を活用した科学技術体験学習機会の提供
- ・各研究機関が連携した青少年・一般向けの理解増進活動の推進、等

(4) 関西に集積する研究基盤との広域的な活用・連携

- ・関西全体を対象とした先端研究機関ネットワークの構築
- ・研究機関をまたがるコーディネート活動の展開支援、等

(5) 全国を視野に入れた研究ネットワークの形成

- ・地域にとらわれず、いわば“バーチャルクラスター”として、遠隔地の研究機関等と県内の研究基盤を結びつけるネットワークの構築
(例：先端医療開発特区 スーパー特区)